

編集後記

パート1

締め切りと人類の進歩の相関性

委員M：いや～、紙媒体中心でないから楽観視していましたが・・・なかなか大変ですね。お二人がいらっしゃるから何とかここまで漕ぎつけました。しかしなんで締め切りをまもれないのでしょうか？自分で投稿していて・・・

委員N：「締め切り」に対する対応って大きく二通りのタイプがありますよね。ひとつは、はやく片付けて、他の仕事に向かうタイプ。もうひとつは、締め切りぎりぎりまで、とっておくタイプ。私は、断然、後者になりがちですね。

委員N：しかも、「締め切り」って、相手に突然勝手に決められるので、締め切られた側は「え”え～！！そんなあ～無理！」と心理的になりますよね。そこで、いっそのこと「締め切り」を設定しなかったらどうなるだろうと思いました。例えば「締め切りはありません。ですが、いつ刊行するかは秘密です。」としたら、案外早く原稿が集まったりして・・・(笑)。

委員M：人間は毎日進歩しています。書いた原稿を出す直前に、「待てよ。もっとよく書けそうだ。」と思うのかもしれない。

委員O：締切についてはたしかに課題ですが、創刊号のような煩雑な作業は、今後はないでしょうし、進歩を目指す人間の行動に水をさすのも・・・。

パート2

2044年からみた創刊号

小満沼：国際戦略・・・国際化・・・30年前は、「国際」って言葉がこんなふうに使われていたんだね。なつかしいな～。

山溝くん：先生、あの～、「国際」って何ですか？それから、ここに「留学する」とか「留学生」ってありますが、この「留学」って？

小満沼：留学生というのは、海外から日本に来て、一定の期間勉強する学生のことだよ。もうあまり聞かない学生の括りだね。というのも、今は、各国の教育機関が連携して、学生が自由に行き来して勉強できる制度が世界的に確立しているからね。それから「国際」だけど、少子高齢化対策と労働力を補うために、日本は20年前に〇〇移民政策に大きく舵を切ったよね。山溝君の周りには、外国にルーツを持つ日本人がたくさんいるだろう。君たちの世代は、日々の生活がす

でにいわれる「国際的」だから、「海外」や「外国」、「国際」という概念自体があまりしっくりこないだろうね。

山溝君：なるほど……。そんな時代もあったんですね。今、この社会に身を置いて不自由なく過ごしているんですけど、昔の「平成」の日本の写真や映像を見ると、その時代に生きてた訳じゃないのに、何かノスタルジーを感じるんです。「留学」「国際」って言葉から伝わるなんというか、緊張感、大事にしていきたいって直感的に思うんです。先生、この『ときわの杜論叢』創刊号、もらってもいいですか？

パート3

あれから2世紀 2214年

高林くん：こんなものができたよ。『ときわの杜・・・』、杜って、昔は 自然が豊かだったんだね。いろんな言語がならんでるよ、それに、日本語、英語、中国語、ドイツ語、スペイン語、韓国語、ギリシャ語・・・こんな区別をしていたんだね。今とはずいぶん違うね。

荒橋くん：まあね。今は、横浜では、ジャスペランド語を使ってるからね。あれ？裏表紙に何かメモが書いてあるよ。「山溝」って名前が書いてある。しかも2044年だって。ふっーい！！あのころは個別言語をわざわざ苦労して勉強していたんだ。

高林くん：邦ちゃん教授の言語史で言ってたね。そう言えば、脳内に多言語対応型自動翻訳装置を付けていた時代もあったらしい。言語はこれで翻訳したんだね。

荒橋くん：横浜は、異文化の交わる地ってあるよ。異文化から学ぶ？ 文化が異なるってことは文化の違いも意識していたんだね。言語を学ぶときその文化も学んでいたってことだよな。

高林くん：20・21世紀に、武力や暴力を伴う激しい文化の衝突が世界的に多くなって、自文化中心主義の考えが批判されるようになった、Bernardo Watamsky(ベルナルド・ワタムスキー)先生によると、グローバリゼーションの名のもと、人々が盛んに国をまたいで仕事や生活をするようになって、結果的に、世界的な文化の画一化が起こったってね。言語はといえば、現存するすべての言語の共通点をもとにつくられた人工言語コスモスを基礎とする言語を使うようになった。その一つがジャスペランド語だよ。荒橋くんのおじさんは、上海でチャスペラント語を使ってるっていうし。

荒橋くん：ワタムスキー先生言ってたね、200年以上も前のことだけど、言語は人類共通の財産、だから大切に維持し絶滅から救う価値があるっていう思想から共通言語を持ちつつ言語の多様

性を確保する努力をしていたってという地域連合が欧州にあったって。

高林くん：ふ～ん、そんな思想もあったんだね。でも、その一方で、21世紀末には、20世紀の言語の95%が消滅するって予言してた人もいたそうだけど・・・。

荒橋くん：実際、言語も文化も共通じゃなきゃってあたりまえのように考えられてるけど、僕はやはり、同じ日本人でもルーツを他国に持つ友達とは、違いを強く認識する時が結構あるね。言葉は分かるんだけど、その言動の背後にあるものが僕からはどうしても発想できないんだ。つまり、僕とその友達の間には共通した部分とどうしても混ざり切らない部分が存在するんだよ。そして、後者こそが彼の持つ自文化なんだと分かったんだ。

荒橋くん：そうそう、自文化があってこそ異文化というものを認識できて、そうしてこそ異文化を理解しようとする積極的な気持ちも生まれるんじゃないかってね。異文化を知ることは、本当はとても面白いことなんだ。言語を学ぶことでその言語が話されている国や地域の文化も勉強するなんて、一見、効率が悪いように思えるけど、これは、「混ざり切らない部分」を理解する有力な方法のひとつなんだよ！昔の人はそれをよく分かっていたんだ。

高林くん：つまり、自文化あつての異文化、言語や文化を画一化・利便化したことで却って明確になった多様性の大切さ、昔の思想、捨てたもんじゃないね・・・。

委員 MNO：(研究室にて。編集作業中、居眠りから目覚めて。)

はっ！ 寝てしまった！ 今日の夕方5時までには図書館に送らなければならなかったのに。今、何時だ?? うわっ、もう8時!! 締切、過ぎちゃった、どうしよう・・・。

しかし、壮大な時間的スケールの夢を見てたなー。そうだ！これを編集後記にしてみよう！さて、夢の中で、人類は進歩してたのかな～???

<終わり>